

札幌市環境プラザ事業検討部会

平成25年度第2回実施概要

- 1 日時 平成26年3月12日(水)午後7時~午後9時
- 2 会場 札幌エルプラザ公共4施設2階 会議室1・2
- 3 出席者
 - (1) 委員: 今委員、白崎委員、新保委員、成田委員、宮森委員、森山委員
 - (2) 札幌市: 札幌市環境局環境教育担当係長、環境教育担当
 - (3) 事務局: 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会市民参画課長、環境係長、指導員、サポートスタッフ
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 札幌市環境局あいさつ
 - (3) 議事
平成25年度札幌市環境プラザ事業報告
次期指定管理事業計画(平成26年度札幌市環境プラザ事業計画)
 - (4) 閉会

5 議事概要

- (1) 平成25年度札幌市環境プラザ事業報告
おもな質問

(質問) 子どもたちがエコクラブで体験したことをどのように発信しているのか?

(回答) 調査報告書で来館者に伝えてきた。前期は、野外調査中に採集した昆虫を標本にしたものと一緒に展示した。また、環境プラザのホームページ上でもエコクラブ員たちがブログを使って情報発信をした。

(質問) こどもエコクラブは、何年生の子どもたちが何人くらいか?

(回答) 登録は6人。4年生が1人、5年生が1人、6年生が4人。

(質問) こどもエコクラブに参加している子どもたちの具体的な声などはひろっているか。

(回答) 毎回活動の記録としてワークシートを活用している。その日に何をしたか、発見したこと、感じたこと、疑問に思ったことを記録してもらうようにしている。

(質問) 環境教育リーダー派遣で、保育園から好評の感想をいただいているということがあったが、具体的にどういう点がよかったのか。

(回答) 幼稚園や保育園、学校の方々が川で子どもたちと活動したくても危険なので二の足を踏んでいるところが多い。そこにリーダーが加わることで、安心して子どもたちが自然観察ができたというご意見が届いている。

おもなご意見・ご要望

<こどもエコクラブ>

(広く活動を知ってもらうために) プロセスをレポート化する。例えば子どもを対象としたイベントであれば保護者の方に伝わると、「私の子どもをぜひ参加させてみたい」と考えると思う。

いい活動をより多くの子どもたちに体験させたいと率直に思う。

<環境教育リーダー派遣、環境保全アドバイザー派遣>

小中学校で派遣を増やそうとするのであれば、変えなくてはいけないところがたくさんあると感じている。

- ・(講師紹介パンフレットで)講師の顔写真やテーマが掲載され、講義内容が見えてくるとよい。
- ・学校の先生方と2回3回の打ち合わせをしながら派遣準備を進めていくことができればよい。

<キッズページ(ホームページ)>

データを最新のものに入れかえるだけでいい。例えば、環境局のごみ減量推進課の新しい年度のものをつけ加える程度であれば業者を通さなくてもできると思う。最新のデータを加えてほしい。

<その他>

説明資料のうち、実績表などの文字が小さかったので次回以降改善してほしい。

環境プラザと環境財団の事業のコラボレーションにより、組織が協働すること、連携することの効果が見えてきている。このようなところを伸ばしてほしい。

(2) 次期指定管理計画(平成26年度札幌市環境プラザ事業計画)

おもな質問

(質問) 市民やNPOが学校教育と一緒に展開していきたいという強い希望があっても、門は閉ざされてしまっており、活躍の機会がほとんどない現状を、どのように考えるか?

(回答) 事業計画では、環境プラザのプログラムを学校で展開することを新規事業として打ち出している。一方、市民団体やNPOなどが活躍できる場や機会の提供は必要であり、現在NPOと企業の連携強化について検討・準備を進めている。このように市民団体やNPOを含めた連携は、市として視野に入れて動いていく考えである。

(質問) 環境教育のオリジナルプログラムを製品化するということがあるが、どのようなものか?

(回答) 「札幌市環境プラザ見学ツアーのご案内」に書いてあるアクティビティーがそれにあたる。土曜日ワークショップには月ごとにテーマがあり、それに沿ってプログラムを作り改良している。

おもなご意見・ご要望

<企業と学校のマッチングについて>

環境プラザの役割として「民」の活動の場を決して埋没させることがないように工夫してほしい。学校のニーズ、企業のニーズをしっかりとリサーチして実施した方がよい。

札幌市教育委員会発行の手引きの中で、どんな学習どんな単元で工場見学が行われているかを洗い出すと学校も対応しやすい(教育委員会の指導主事に相談するとよい)。

具体的な方法として、出前授業形式で企業の方に学校に来てもらい、1時間や2時間の枠の中で授業や実習をしてもらうことがある。また、訪問学習、見学学習は意味があるが物理的な要因(時間、お金、バス)が問題になる。環境局のバスと日程をリンクさせることが重要となる。

(環境学習を実施するために)環境関係の事業所にひたすら電話して、子どもたちの受け入れをお願いした。「環境関連事業所の一覧」があるとよいと思う。

(3) 環境プラザの新規事業の意図と、環境プラザ事業検討部会の趣旨

事業検討部会設置の趣旨として、環境プラザのミッションを踏まえ、これまで継続してきたことを大切にしながら、これまでの時宜用のなかで不足したことや、取り組みが難しかったことなどを拾い上げ、改善するために、委員の意見をいただくことが、確認された。

環境プラザの新規事業の意図として、パイロット的に取り組みながら、課題などを抽出し、プロトタイプを作ったり、モデル化することや、さまざまな取り組みのプラットフォームを提供することなどで、多くの方々に提供すること、参加の敷居を低くすることなどが確認された。

以上